



ダイヤモンド
シティ
小美玉
見つける。
みがく。
光をあてる。

もっと小美玉を語りたくなるマガジン

広報
おみたま
第200号

2022年
November

11

contents

【特集】広報おみたま200号記念	2-7
小中一貫教育	8-9
令和3年度決算	10-11
気になるあの人	12
わだい	13-15
4コマ小美玉暮らし	20



広報おみたま
200号記念

見つける。
みがく。
光をあてる。



広報
おみたま
第200号

広報おみたま
200号記念

見つける。
みがく。
光をあてる。

今月の表紙



創刊から200号まで、数えきれないほど多くの方に支えられ、発行を続けることができました。快く取材に応じてくださる皆さん、制作や配布に携わってくださる皆さん、そして、いつも楽しみに読んでくださる市民の皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。(広報担当一同)

広報おみたまは、発行200号を迎えました。2006年3月に市が誕生してから現在まで、市政情報や市内の出来事、市民の活躍など幅広い情報を伝えてきました。200号の節目に、紙面に登場したことがある方やアンケートの声をもとに、広報おみたまを見つめ直します。

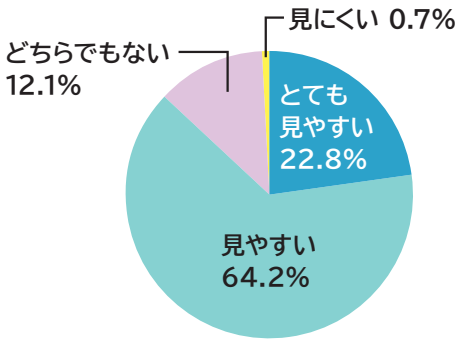
8割超が「見やすい」と回答

おみたまネットモニターなどを対象にした広報紙アンケートで、「紙面の見やすさ」や「内容のわかりやすさ」について尋ねたところ、8割以上の方が「見やすい」「わかりやすい」と回答しました。また、毎回読んでいるコーナーに「特集記事」や「旬なわだい」を挙げる方が多く、地域の情報が人気であることがわかりました。いただいた感想は今後の紙面づくりに活かしていきます。

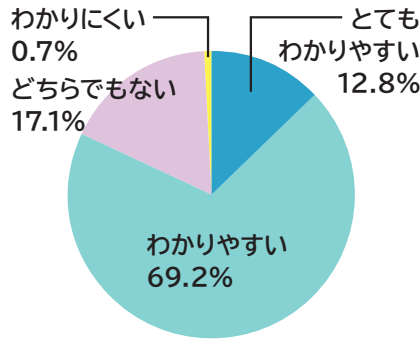
広報紙アンケート 結果報告

※令和4年度第2回ネットモニターアンケート(9月21日～10月2日)、広報紙に関するアンケート(9月29日～10月10日)の回答を集計。回答者数154人。

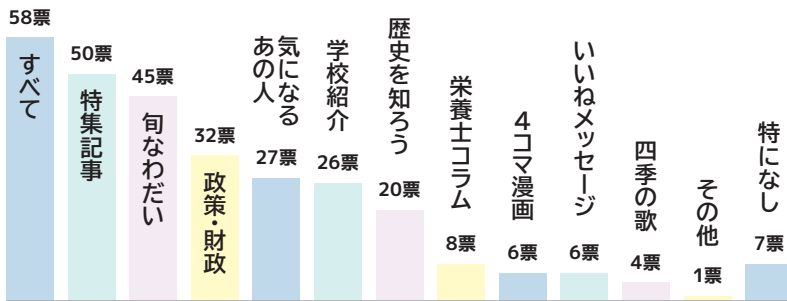
1. 紙面の見やすさ



2. 内容のわかりやすさ



3. 毎回読んでいるコーナー



4. 人気特集ベスト5

- 1位 40票 上手に食べよう 発酵食品 (2022.8月号)
- 2位 33票 実は身近なSDGs (2021.9月号)
- 3位 32票 次世代につなぐ伝統への想い (2022.7月号)
- 4位 29票 子どもを育てる地域スポーツ (2022.6月号)
- まちの灯台 羽鳥駅 (2022.3月号)



対象:2021年9月～2022年9月の特集記事

広報おみたまの感想&わたしの活用法

ただの広報紙ではない! ゆとりある紙面で、テーマも興味深い。他市町村のも読めますが、小美玉市は負けていないですね。

移住してきた私にとって、ありがたい情報源。近所のお店が載っているのが楽しく、毎月発行を心待ちにしています!

知り合いが掲載されるという情報を得ると、回覧が待ち遠しい。2穴付きなので、興味深い号は紐でつづって保管します。

広報紙に折り込まれるチラシと同じ内容が、広報紙にも掲載されることがあります。重複記事は避けるべきだと思います。

メール配信されるのでスマホで広報紙を拝見し、その後、公共施設に行っています。

育った街ではないため、紹介されている場所には行ってみます。今では愛着が湧き、人にヨーグルトをすすめてしまいます!

ローカル情報がたくさんあり、楽しみにしています。子どもも読みやすいコーナーがあれば、自分のまちに興味を持つきっかけになるのでは。

広報紙らしからぬおしゃれで読みやすい紙面で、とても良いです。最後のページのふるさと応援メッセージ、心がほっこりします!

各世帯に配るのは紙の無駄になるかもしれませんが、配られたほうが見る機会は増えるので継続していただけたらうれしいです。

『広報おみたま』ができるまで

広報おみたまが皆さんのもとに届けられるのは、多くの市民の皆さんの協力があってこそ。広報おみたまができるまでの流れを、紹介します。

1 編集会議



毎号の特集の企画を話し合うのが編集会議です。「読んでもらった後、どんな人にどう行動してほしいか」という特集の目的を定め、取材対象者や構成を考えていきます。写真・文章などの要素が決まったら、職員がおおまかな紙面構成(ラフレイアウト)をまとめます。

3 編集・レイアウト



取材内容をもとに、中学生が理解できる言葉遣いを心がけながら記事を書いていきます。写真の明るさなどを調整し、パソコンで紙面を作成します。特集記事は外部のプロの視点でチェックと補正をしてもらい、見やすくわかりやすい紙面を保っています。

2 取材・撮影



会議で決まった企画に基づき、取材や写真撮影を行います。下調べをし、質問を用意して取材先に訪問。会話の流れを大切にその人の言葉を引き出します。写真も、どんな角度・配置で撮影するか考えておかないと、なかなか思い通りの写真になりません。事前の準備が肝心ですね！

4 入稿・校正



仕上げた紙面データを印刷所に送ります(入稿)。印刷所から印刷見本が届いたら、誤字・脱字など内容に誤りがないかを確認し、修正します(校正)。取材先にも確認をお願いし、誤りがないように複数の目でチェックと修正する作業を繰り返し、印刷用データを完成させます(校了)。



「38年の間には、仕事や子育て、親の介護などで活動の危機もありました」という話し方教室の皆さん。生活の合間をぬって継続してきました。

声で届ける「広報紙の音訳」

話し方教室 代表 真家 悦子さん

話し方教室は、月に一度、広報紙を読み上げ録音する音訳ボランティアを38年間に渡って続けています。利用者の方の「毎月楽しみです」という感想を聞き、大変うれしく思います。まちの人々の様子がいきいきと伝わるよう、これからも私たちの「声」で貢献していきたいです。

目の不自由な方へ：「声の広報」をご利用ください

広報紙の内容を録音したテープを希望する方はご連絡ください。
企画調整課 シティプロモーション係 ☎0299-48-1111(内線1234)



全国5位



ぼくたち
全国デビュー!?



初出場で初入選！SDGsを漫画で解説

広報おみたま2021年9月号が、自治体広報の甲子園「全国広報コンクール」に初出場し、入選(第5位)に選ばれました。

広報紙交流をしている自治体から
うれしいコメント届いています

開くのが楽しみになる内容とデザイン



岡山県真庭市 総合政策部 秘書広報課
主任 井上 聖子 さん

「伝えたい」という思いを感じる内容と、読みやすく洗練されたデザインの広報おみたまに毎回刺激を受けています。これからも楽しみにしています。

人の表情で魅力を伝える紙面が素敵

龍ヶ崎市 市長公室 まちの魅力創造課
係長 関口 裕城さん

広報おみたまに掲載される「市民の表情」はどの方も素敵！元気で魅力あふれる街の様子が伝わってきます。お互いに「市民の表情」を大切にしたいですね。



5 印刷・製本



印刷用データが完成すると、いよいよ印刷所で広報紙を印刷します。広報おみたまは毎月15,000部程度印刷されています。印刷所が紙の彩色や品質に問題がないかを逐一確認しつつ、印刷、裁断、製本を行い、皆さんのお手元にある広報紙が出来上がります。

6 配布



広報紙を
↓ スマホで読む



↓ 配布場所



市役所に納品された広報紙は、委託先のシルバー人材センターによって市内各所に配達され、行政区を通して各戸配布されます。発行日は毎月第2、第4木曜日です。市内公共施設やコンビニ・スーパーにも設置されるほか、市ホームページでも公開されます。



発行日当日、北浦公民館に届いた広報紙とその他の冊子やチラシ類。到着と同時に仕分け作業を始め、各ブロックへと渡されます。

行政区が担う各戸配布

北浦区 区長 久 幸彦さん

大野 耕造さん

久 幸彦さん

原田 秀法さん

北浦区には、500軒以上の世帯が加入しています。世帯が多いので、配布物をまず4つのブロックに分け、さらに班ごとに配布します。配布物が多いときは大変ですが、各世帯に早く届けられるように、役員で協力して作業しています。



わたしと広報紙の

きっかけ & 思い出 STORY〈ストーリー〉

創刊から200号、これまで多くの市民やその活動を広報紙で紹介してきました。

なかには、掲載をきっかけに新しいプロジェクトを始めた人、周りからのうれしい反響をもらった人、家族とのいい思い出になったという人も。広報紙にまつわるストーリーをさまざまな年代、地域の方に伺いました。



2021年4月号に登場

滝平二郎生誕100年記念プロジェクト実行委員会の皆さん

地域の宝を語りつないでいきたい

玉里地区出身のきりえ画家、滝平二郎さんの生誕100年を記念して、市内6つの読み聞かせグループが朗読パフォーマンスを企画・上演しました。きっかけは、2021年4月。広報紙の滝平二郎特集と、開校した玉里学園義務教育学校の壁面に滝平さんのきりえが描かれたことです。滝平作品の読み聞かせを続けてきた私たちの手で、その素晴らしさを語りつないでいきたいという思いでプロジェクトを立ち上げました。それぞれで活動してきた読み聞かせグループが集まり、一緒に稽古に励んだことで、年代を超えた友人もたくさんできました。幕が下りた後はみんな涙、涙。充実したチャレンジでした。深まった横のつながりを今後も活かしていきたいです。



2019年12月号に登場

菓子工房 nagai
永井 友之さん かほるさん
芽衣さん 駿地さん 杏実さん

お店の存在を知ってもらったきっかけになった

母子3人で表紙に載り、お店のことも紹介されました。発行後は保育園で声をかけられたり、「広報を見た」と来店された方もいたりで大反響。多くの方に顔を覚えてもらえました。



2021年8月号に登場

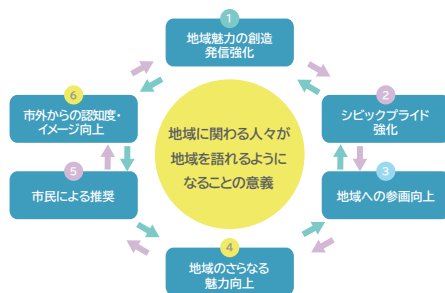
安達建具株式会社
安達 克敏さん 将伍さん

身近な人からの反響は広報紙ならではの

家族3人で載ったので、知人から「見たよ」と声を掛けられる日々がしばらく続きました。照れくさかったのですが、いい思い出です。これをきっかけに伝統工芸「いばらき組子」をもっと発信していきたいです。

- ①魅力創造・発信強化／②シビックプライド※強化
地域の魅力を創出し、磨き上げ、発信することで、まちに対する愛着、当事者意識を持つ人が増える。
- ③地域への参画向上／④地域のさらなる魅力向上
まちに関わる人が増えることで、さらに魅力が強化。
- ⑤市民による推奨
- ⑥市外からの認知度・イメージ向上
市の魅力を市民が推奨・発信すると、市外からの認知度やイメージ向上につながる。

図：共創参画プロモーションの流れ(小美玉市シティプロモーション指針)



広報おみたまが
目指すもの
地域の担い手を増やす
市は、シティプロモーション指針に基づき、地域の担い手を増やすことによるまちの活性化を進めています。

※シビックプライド：地域への愛着に加え、「地域をより良くするために自分がかかわっている」という当事者意識を伴う自負心。



2021年5月号に登場

大学1年生
田村 咲星さん

地元の魅力を 知るきっかけに

広報紙は特産品や地元のことを知れるので、子どもの頃からワクワクしながら読んでいました。高校生のとき、「小美玉の魅力をみんなと共有したい」と、観光や特産品を紹介するリーフレットを作成しました。



2020年4月号に登場

茨城一本桜番付 勸進元
坂野 秀司さん

広報紙が活動の 名刺代わりに

地元の桜を3つの観点から語った桜特集。「歴史深い桜だけでなく、地域に根差した新しい桜の名所も知れた」という反響が多かったです。私の名刺代わりに、出会う桜愛好家の皆さまに配っています。



2021年1月号に登場

茨城空港応援大使
千葉 未夢さん

育ててくれた 地域に貢献したい

大使活動に挑戦したのは、成人式実行委員会への参加がきっかけ。コロナ禍でも成人式を開催してくれた関係者の皆さんに感謝しています。自分にできることを見つけて貢献していきたいです。



2021年3月号に登場

タウンジャーナル小美玉
藤田 佐知子さん

人と会って 話すことの楽しさ

タウンジャーナル小美玉に参加して、知らなかった市内の魅力に気づき、世界が広がりました。取材の度に、人と会って話す楽しさを感じます。一読者としても、他の方が書く記事を楽しみにしています。



2021年7月号に登場

おがわ地区コミュニティ
会長
小島 健一さん

まちづくり活動の 手ごたえを実感

記事が掲載されて、知らない方からスーパーで声をかけられるようになりました。今年初めて発行したコミュニティの広報紙も予想以上の反響で、関心の高さに手ごたえを感じています。



姉の真歩さんが
2020年1月号に登場

二十歳のつどい実行委員
安田 優凜さん

家族みんなで めくった広報紙

姉が成人式実行委員として広報紙に載ったときは、家族みんなで姉の写真を探しました。今年は私も実行委員になり、「一緒にやろう」と友達に声をかけました。思い出に残る「つどい」にしたいです。

図のような好循環を生み出すための取り組みの一つが、広報おみたまの特集づくりです。広報紙はホームページと並び、行政情報を市民に届けるための重要な媒体ですが、それに加え、生活に身近な情報や地域の魅力、まちをより良くしようとする人を紹介することで、まちの魅力を語る人々地域の担い手を増やしていくための手段にもなります。

もっと小美玉を 語りたくなる広報紙に

広報おみたまは、これからも地域の魅力や時流に合ったテーマをわかりやすく伝え、未来の小美玉市を担う若い世代の方にも手に取ってもらえるような広報紙を目指します。そして、「もっと小美玉を語りたくなるマガジン」として、隠れた地域の魅力や、何かに一生懸命に取り組む市民を見つけ、みがき、光をあてる紙面づくりに取り組んでいきます。